

保団連新聞部会

読まれる紙面づくり模索

「皆保険、開業医との関連づけ大切」

保団連の新聞部会が4月14日(日)大阪市内で、部員選出13協会から19名が出席して開かれた。

冒頭、杉山正隆部長(福岡歯科協会)から、アベノミクスをどう見るか、という話題提供があった。株価が上がり、円安が進み、日本経済は上向いているというのが一般新聞の論調だが、同部長は「景気が回復しつつあるのはアベノミクスによるも

のなか。そもそも景気は回復しつつあるのか。円安は通常、国力の低下を意味する」と述べられた。

杉山部長は毎日新聞の記者をされていた時代もあり、いまもジャーナリストの肩書きをお持ちだ。部会に出席する度に、世の中の動きを見る慧眼に感心させられる。

議論では、全国保険医新聞で消費税増税やTTP、原発などの問題をどのように伝えるか、ということが議論された。開業医の団体である以上、これらが医療(皆保険)制度や開業医の経営にどう影響するのか、その視点での報道が大切と考えた。新聞部では全国の会員に読まれる、親しまれる紙面づくりに心を砕いている。5月5日・15日(合併号)号から初の試みとなる小説の連載が始まる。ぜひページを開いていただきたい(下記の囲み記事ご参照)。



4月14日(日) =大阪保険医会館

無医村に生涯捧げた女医

志田周子

全国保険医新聞で
連載小説に



地域医療に生涯を捧げた女医 志田周子(しだ ちかこ)

『全国保険医新聞』5・15日号(本会報に同封)で、連載小説「いしゃ先生」がスタートしました。執筆は、作家の阿部美佳氏(NHKドラマ「陽炎の辻」等で知られる脚本家でもある。脚本家としてのPNは、あべ美佳)。

「いしゃ先生」は、女医・志田周子(ちかこ)の生涯を描きます。周子は明治43年、山形県西村山郡左沢町(現大江町左沢。当時、父莊次郎が左沢尋常高等小学校の訓導を勤めていた)に生を享けます。昭和8年に東京女子医学専門学校(現東京女子医大)を卒業後、勤務医を経て昭和10年、一家の故郷である大井沢村(現西川町大井沢)に大井沢診療医として帰郷。以後、51歳でガンに斃れる昭和37年まで、冬に3メートル以上もの雪が積もり、病院に行くのも1日がかかり、陸の孤島といわれた無医村の医療に生涯を捧げました。時を超え、今を生きる私たちに語りかけるものを読み取っていただければ幸いです。

今、西川町では、「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」を中心に、映画化の動きもあります。